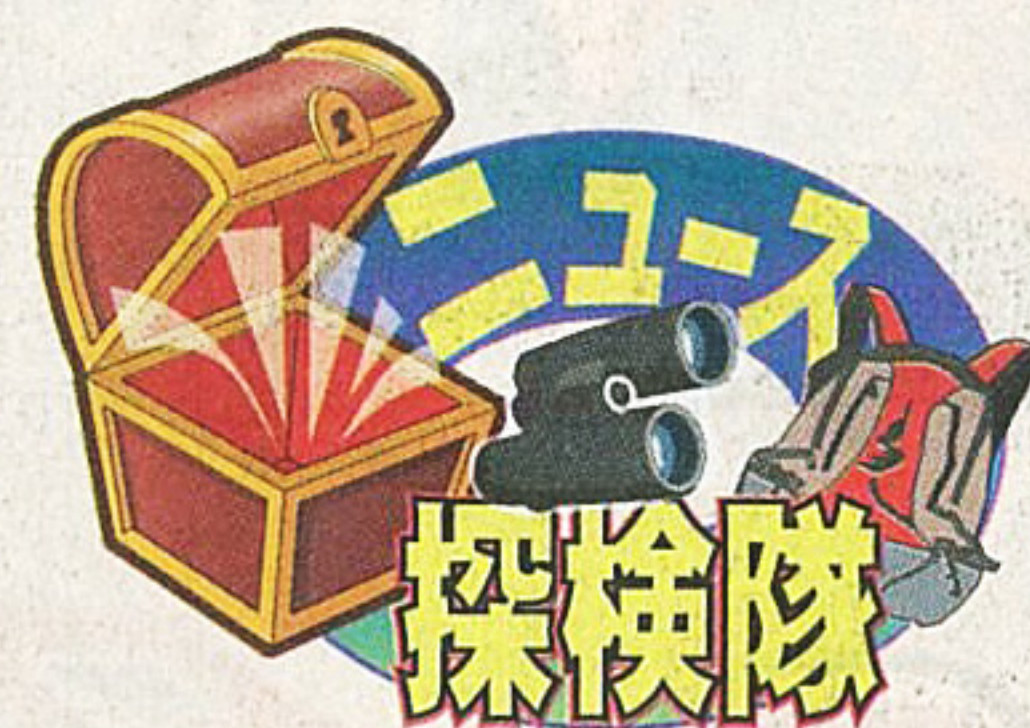


人生の最期を自分で準備する

静かなブームです 終活



「シュカツ」といえば、就職活動の「就活」が一般的だったが、最近は人生の最期を自分が望むものとするために備える「終活（しゅうかつ）」が静かなブームを呼んでいる。今月亡くなった流通ジャーナリスト金子哲雄さんも生前、葬儀などの準備をしていたという。終活の現場を訪ねた。（高橋謙太）

好感「エンディングノート」

見学者 「いろんな棺や骨つぼがあるけど、どれを選んでもいいの」

ディレクター 「お値段は基本の形状のものにプラスになりますけど、お選びいただけます」

見学者 「葬儀の時にモーターのCDを部屋に流してもいいの」

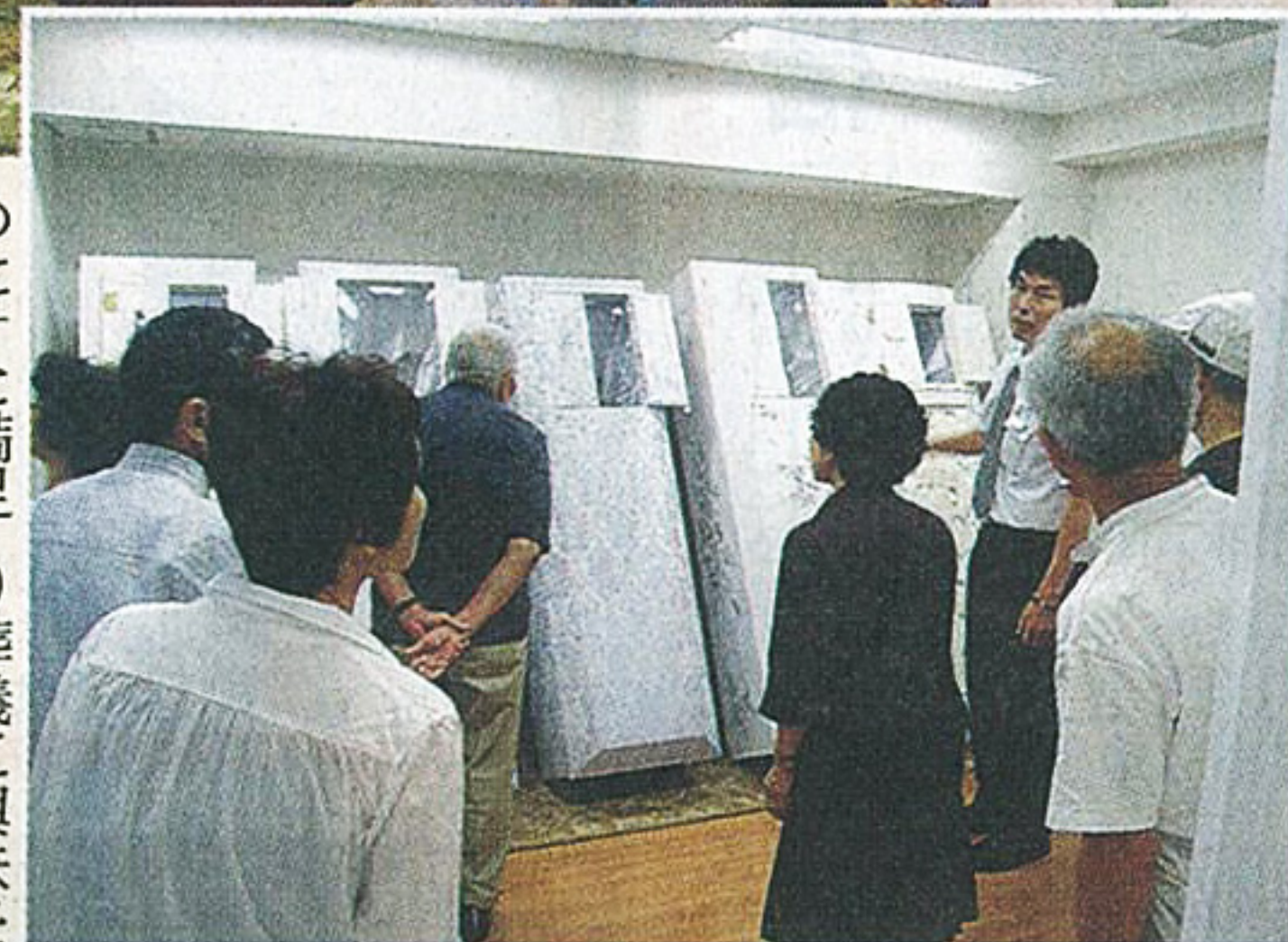
ディレクター 「プレーヤーはこちらで用意しますので、音を落としていただければ大丈夫です」

日曜日、横浜市のJR新横浜駅からほど近い総合セレモニーホール「ラステル新横浜」では、家族葬・直葬の見

学会に約50人が集まった。10人ほどにわかれた各グループに付いた担当ディレクターが館内を案内していたが、葬儀は人生の最後に通過する「儀式」とあって、見学者は真剣な表情で盛んに質問していた。

「高齢者の方は友人なども少なく、参列者が少ないため、コンパクトでリーズナブルな値段の葬儀を求める声が多い。そこで、自由なスタイルで、近親者ら少人数で行う家族葬、葬式をせずお見送りだけを行う直葬を前面に打ち出している」（同ホールの運営会社「ニチリョク」の宮崎徹営業部長）

同ホールは地上9階地下1



⑤各グループの担当ディレクター（左）の話に真剣な表情で聞き入る見学会の参加者たち ⑥自分好みの棺を選び、思い通りの葬儀を演出できる＝横浜市の「ラステル新横浜」で

骨つぼ、棺、葬儀の音楽…

階で、3階と4階が参列者20人程度の家族葬ができるフロア。火葬の日程が決まるまで遺体が安置できるため、直葬にも対応する。地下の葬儀場では参列者100人規模の一般葬を行うことが可能だ。

また、「これまで葬儀の費用は不透明な部分が多かった」（宮崎さん）というだけに、パンフレットにはどの項目にいくらかかるかを明記。

▽直葬31万5000円（税込み、以下同）▽家族葬59万8500円▽リビングアッシュ68万2500円▽一般葬98万7000円ととなっている。

見学会に訪れていた横浜市在住の男性（72）は「親族が名古屋、広島など東海新幹線沿線にお住まいの方が多いので、葬儀の準備が楽なところだ」と話した。

期までを撮影した映画「エンディングノート」が公開され、ヒットした。自分が葬儀で着たい服を発表する「終活ファッションショー」も開催された。

終活ブームの背景について、「葬式プランナーまどか屋、広島など東海新幹線沿線にお住まいの方が多いので、葬儀の準備が楽なところだ」と話した。

めた」と満足げに話した。葬儀のやり方、財産や貴重品の情報、相続について考えるなどを、家族らに向けて書き残しておく「エンディングノート」の売り上げが好調だ。昨年は、娘が父親の最期までを撮影した映画「エンディングノート」が公開され、ヒットした。自分が葬儀で着たい服を発表する「終活ファッションショー」も開催された。

資格「終活カウンセラー」も 一方で「終活でも、女性には葬儀をどうするかなど見た目やメンタルの部分が重要。男性の場合、葬儀の費用や相続など金銭面が気になる人が多い。終活について1つの窓口が解決してくれるのがベスト」と指摘する。

（東京都品川区）の武藤頼胡理事は「終活は葬儀のみならず、介護や相続まで一括して相談できる窓口があればいい」と話した。『終活カウンセラー』の養成を始めた」と話す。武藤さんはもとと葬儀社



故人の生前の趣味に合わせた野球やゴルフのボールの形をした骨つぼも用意されていた

でコンサルタントをつとめていた経験を生かし、10年8月に「終活相談」のサイトを立ち上げ、昨年10月に1回目の「終活カウンセラー検定」を行った。取材に訪れた日は都内で初級の講座・検定が行われていたが会場は約100人の受講生でぎっしり。講座は弁理士・税理士のそれぞれから見た終活についての講義を聞き、テキストでカウンセリングに必要な知識を学ぶ。最後に筆記試験があり、合格すると初級に認定される。受講料は7350円。これまで約400人が初級に認定されているが、難易度の高い上級とインストラクターはまだ検定が実施されていない。「受講者は北海道から沖縄まで、年齢層は20代から80代まで幅広い。最近では葬儀社など仕事で知識を使う人の受験が3割ほど。来年度以降は北海道から福岡まで全国の主要都市で講座を開講する予定」（武藤さん）

資格取得を目指す人が増えれば、終活する時に心強い味方となりそうだ。